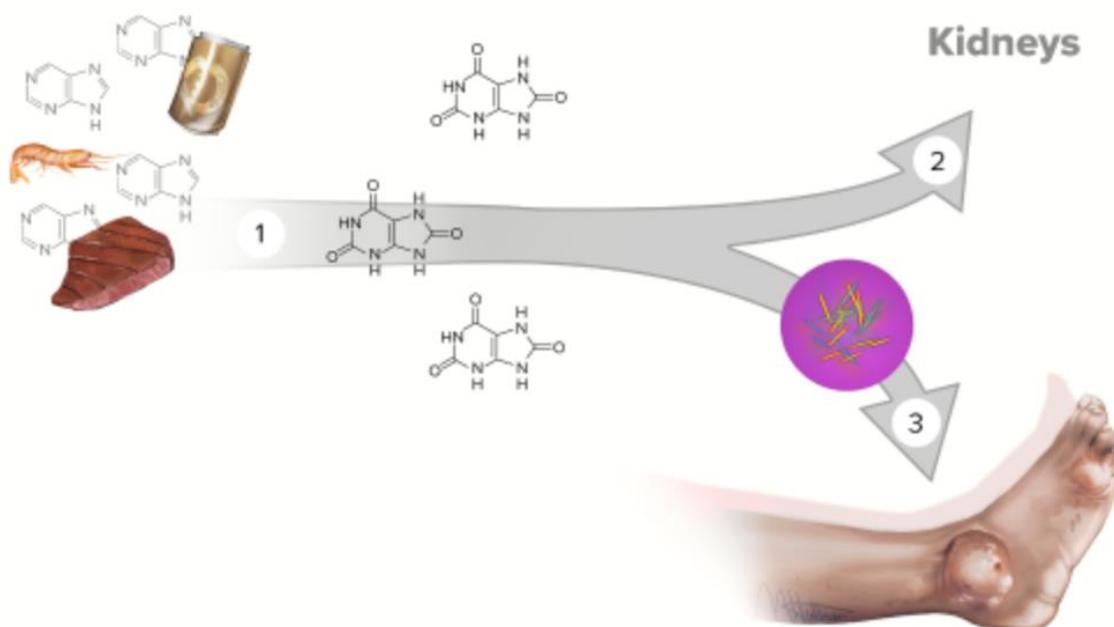


高尿酸血症の生命予後への影響

男性において、高尿酸血症は、生命予後への影響が糖尿病や高血圧に匹敵することが分かり、第52回日本痛風・核酸代謝学会で発表されました。約12万人の住民健診受診者のデータもとに、人口寄与危険割合（PAR%）という指標を用いて解析した結果判明したものです。



全体での PAR%を見ると、全死亡については、喫煙（9.4%）、高血圧（8.9%）、糖尿病（4.8%）と続き、高尿酸血症（2.5%）。心血管死亡については、高血圧（37.%）、喫煙（10.4%）、糖尿病（6.9%）、高尿酸血症（6.6%）。すなわち、心血管疾患死亡の約 15 件に 1 件が高尿酸血症によることを意味し、高尿酸血症は糖尿病と同程度の影響を及ぼしていることを示唆しています。



さらに、男性における高尿酸血症の PAR%は全死亡で 4.6%と高血圧（4.6%）と同等、心血管死亡においては 14.3%と糖尿病（9.8%）を上回っていました。すなわち、男性の全死亡の約 22 件に 1 件、心血管死亡の約 7 件に 1 件が高尿酸血症に起因することが判明しました。

